

研究所だより

第388号

2018年 6月14日

発行：土佐清水市教育研究所

TEL 82-3015

“雨降りお月さん 雲の蔭

お嫁にゆくときゃ 誰とゆく

ひとりで傘（からかさ） さしてゆく

お馬にゆられて 濡れてゆく “

『雨降りお月さん』 日本の童謡・唱歌（1925）



～アジサイの花が色鮮やかに咲いています！～

例年より早い梅雨入り。じめじめとしたお決まりの天気が続きますが、気持ちは爽やかにいきたいものです。新年度がスタートして2ヶ月半が過ぎました。各学校では、プール開きも終わり水泳の授業が始まっていることでしょう。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。

学習指導要領総則に則した実践上の課題 天笠 茂 特任教授(千葉大学)

このたびの学習指導要領改訂をめぐり、次の世代の育成をめざして、「社会に開かれた教育課程」という理念が掲げられ、実現をめざす目標や方針が示された。それら一つ一つが、これからの時代を見据えて説かれたものととらえる。

しかし、それらは、実際に実践されることによって、しかも、実効性をともなう取組であることによって、意味を持ってくるものも少なくない。

いかに、掲げられた改訂の理念を学校経営の実践として受けとめ展開していくか。学習指導要領改訂は、いよいよ局面を実践の場に移し、その在り方を問うことになったということである。

○学校・教室まで届かないということ

ところで、学校において学習指導要領改訂が掲げる理念や基本方針の具体化をめぐって、それが決して容易なことではないことを改訂の歴史は物語っている。学習指導要領改訂の歴史にとって、改訂の理念の具現化は常に課題であり続けている。

それは、“学習指導要領が改訂されても、学校まで届かない、教室にまで入らない”という言葉によく表されている。そこには、改訂の理念と具体が遊離し、理念が置き忘れられた状態になることを指摘する意も含まれている。

一方、“学習指導要領改訂は教科等ごとに学校・教室に入っていく”という言葉もある。学習指導要領改訂の進行の仕方をみると、教科等ごとに入っていき姿がみられた。

その学校において、校内研修においてある教科等を取り上げ、その教科等を授業研究などを通して学ぶことによって、学習指導要領の改訂の理念や基本的事項も一緒に理解を広げていくということである。

特に小学校の場合、ある教科等を取り上げ、それを校内研究・研修の柱として学びを深めていく学校も珍しくない。しかも、その教科等にすぐれた見識や実践力を持つような教師が存在している場合、学校の学びが質的にも一層の深まりを見せることも少なくない。

このようなことから、学習指導要領改訂の理念やコンセプトを理解することも含め、教科等が有力な存在になっていることがとらえられる。ある教科等を通して改訂の理念などを学び深めるといいう学び方をして学習指導要領改訂と向き合うのが、多くの学校の姿であるといえるかもしれない。

確かに、学習指導要領改訂は教科書に収められ具体化されており、教室に届けられてもいる。教科書をもとに授業がなされることにおいて、学習指導要領改訂は教室に届いているということになる。

ただ、これまでの教科等の目標は、改訂の理念をふまえるというよりも、その教科等の固有性を優先するものであったことも否定できない。すなわち、改訂の理念がどのようなものであっても、その教科等の本質と論理が優先されてきたこともおさえておきたい。

いずれにしても、学習指導要領改訂は、教科等を通して学校に伝えられ、そして、教室にも入る仕組みとなっている。しかし、それは、学校・教師にとっては、教育内容の変更として扱われ、学習指導要領全体に関わる理念やコンセプトに関わることについては、その教科等の枠内において関連する事項として位置付けられる傾向にあることも否定できない。すなわち、学習指導要領全体のコンセプトと、教科等の教育内容や方法上の改善の求めとの修正や授業改善とが、うまくつながらないといったことも生じていた。

改めて、学習指導要領改訂に際して、改訂の理念をどのように扱っていくかが、学校にとって古くて新しいテーマであることを、そして、この改善・克服が、このたびの学習指導要領改訂においても重要なテーマであることを、まずは確認しておきたい。

○まず、総則を校内で読む

そこで、この点について改善の道筋を拓くにあたって、学習指導要領の総則に着目してみたい。まずは、総則を全教職員で読み合わせる。この点について見つめ直してみるところから、新学習指導要領に入ることも一つの学校経営上の方策と考えたい。

早速、総則をめぐる慣習・慣行が浮かび上がってくるかもしれない。すなわち、総則は管理職、教科等は学級担任や教科担任などの教職員と、それぞれの守備範囲を設けて分担して読む。

もし、そうならば、それを壊すことが、改善のための第一歩ということになる。

確かに、これまでの総則は、教務主任が知っておけば済むような事項の示し方であったかもしれない。もちろん、全教職員が知っておかねばならない、教育課程の編成にあたっての基本方針や改訂の理念を示す基本的なコンセプトも明記されていた。しかし、教務主任や管理職のものとして総則がとらえられてきたことは否定できない。

これに対して、このたびの学習指導要領改訂は、“すべての教職員にとっての総則”、あるいは、“まずは総則から”を打ち出している。学校として、いかに呼応するかが、学習指導要領への対応ということになる。

このたびの総則は、六つの柱から構成されている。これを分担して概要をレポートし、意見交換を通して実践課題について共有をはかっていく。それを教務主任一人でもということもあり、また、学年ごとに、あるいは、校務分掌ごとに六つの柱を分担するということも考えられる。総則の料理の仕方に知恵を絞ることも、このたびの学習指導要領対応として期待されることである。（引用文献：ぎょうせい リーダーズ・ライブラリ1より）



○教育調査研究委託事業

【研究協力校】の紹介（研究テーマ、概要等）

<幡陽小学校>—研究主任：深原 有恵

校長：矢野川 清

1. 研究テーマ

- ・一人ひとりが考えや思いをしっかりと持ち、共に学び合う子どもの育成
- ・自ら判断し、主体的に行動できる子どもの育成

2. 研究の概要

本校の教育課題としては、学力の二極化が見られることである。学習の理解度や作業に要する時間に個人差がある。また、読解力の育成も急務である。長文問題の課題を明確に読み取り、的確に解答するといった児童の育成も必要になっている。

児童の実態をふまえて、今年度も学習の基本である「聴く」ことを大切に、自分の学びについてお互いが伝え合うことを通して、共に学び合い、児童同士のつながりをもとに、児童主体の授業構成を考え研究を進めていきたい。

そのため、第一の研究主題「一人ひとりが考えや思いをしっかりと持ち、共に学び合う子どもの育成」を設定した。

また、本年度は、「高知県実践的防災教育推進事業」の指定も受けており、防災学習計画の見直しや防災についての意識調査を行い、避難訓練や、防災の授業研究を通して児童の意識改革や保護者・地域の防災に対する知識や理解を深め、地域ぐるみで防災意識を高めるための取り組みを進める必要性を感じている。

そういう意味で、第二の研究主題「自ら判断し、主体的に行動できる子どもの育成」を設定した。

命を守り、主体的に学ぶ力をつけることが本校の研究主題に迫ることにつながると考えている。

3. その他

研究組織

学力向上部会と仲間づくり部会に分かれて研究を進める。

○学力向上部会 自ら学ぶ児童の育成を目指した取り組み（矢野川・深原）

○仲間づくり部会 仲間を大切にする集団を目指した取り組み（杉本・秋田・下元）

その他

○防災学習については校長・研究主任で計画・推進する。

○地域を知る活動や、地域と交流する機会を持つ。（ジンベエスイム・鉢花配りなど）

<足摺岬小学校>—研究主任：山本 眞珠子

校長：岡村 相良

1. 研究テーマ

表現力を育てるNIE実践

NIEを活用した授業づくりに取り組む中で、児童一人ひとりが自分の考えや思いをまとめ、伝え合うことで、思考力・判断力・表現力を高めることを目指す。

2. 研究の概要

①学級での取組(各教科)

- ・新聞に親しむ活動
- ・新聞を活用した授業

②学校行事や全校での取組

- ・ヤブツバキ再生プロジェクト

③その他の取組

- ・高知新聞「読もっか」への記事やイラストの投稿
- ・NIEに関する各種コンクールへの応募



★第1回教育支援コーディネーター連絡協議会あすなろネットワーク開催

5月22日(火)第1回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しました。自己紹介では、アイスブレイク技法の一つである「自己紹介カード」を使って紹介しました。このスキルは、学級経営、仲間づくり等の取組で活用できると思います。協議では岡田研究員から「あすなろネットワークの歴史や目的、現状・取組等」と年間計画について説明し、意見交換を行いました。

第2回あすなろネットワークは、講師に山中智子チーフ(教育センター)をお迎えし、6月28日(木)に開催します。



〔亀谷所長挨拶〕



〔岡田研究員の説明〕



〔カードを使っての自己紹介〕



〔振り返り〕

★第1回教育研究所運営審議会開催

6月4日(月)第1回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の役員選出並びに事業計画「教員の資質・指導力向上の取組(転入教職員研修会、校内研修支援等)、学力・指導力向上の取組(教育推進委託費:教研活動・教育調査研究委託費:研究協力校等)、豊かな心と健やかな体の育成の取組」等について説明し、意見交換を行いました。

役員には、会長に嵐 次広さん、副会長に山崎 修二さんが選出されました。よろしくお願いします。

★第1回土佐清水市小中連絡会担当者会開催

6月7日(木)第1回土佐清水市小中連絡会担当者会が開催されました。新1年生の授業参観・情報交換並びに年間計画、6年生交流会等について協議しました。



〔1年生の授業の様子〕

★平成30年度転入教職員地域学習会開催

6月8日(金)転入教職員地域学習会を布福祉センターで開催しました。前半は毛利館長から布地区の概要、福祉センターの役割等について、後半は弘田教育長から行政方針、教育長の思い等について話していただきました。



〔自己紹介〕



〔毛利館長の講話〕



〔弘田教育長の講話〕

★書籍の紹介★ ~ご利用をお待ちしています~

○リーダーズ・ライブラリⅡ

Vol. 1「新学習指導要領全面実施までのロードマップ」

Vol. 2「『社会に開かれた教育課程』のマネジメント」

★購入予定書籍★

○「特別の教科 道徳」の評価 通知表所見の書き方&文例集(小学校低・中・高学年)日本標準

○キーワードでひく小学校通知表所見辞典「道徳の評価追補版」さくら社

